

# たぐすい

TAKUSUI  
No. 644

6

June. 2010

発行 (財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



大阪湾クリーン作戦による炬口海水浴場清掃(6月9日)

## Report

# 各団体総会行事続く

- ・淡路地区漁協女性部連合会
- ・兵庫県内海漁船保険組合
- ・摂津播磨地区漁協青壮年部連合会
- ・(社)淡路水交會
- ・淡路地区漁協青壮年部連合会
- ・淡路漁協職員協議会
- ・播磨地区漁協女性部連合会

## NEWS 大阪湾クリーン作戦実施!!

## 研修会で(5R+2R)運動を通じて低炭素社会の実現を!

淡路地区漁協女性部連合会

平成22年5月22日(土) 淡路水産センターにて、淡路地区漁協女性部連合会通常総会が開催されました。14会員34名と県本農林水産振興事務所三浦所長、(社)淡路水交會前田会長、JF兵庫漁連山口専務ほか来賓6名の出席があり、平成21年度事業報告、収支決算、同22年度事業計画・収支予算が承認され、総会は滞りなく終了しました。



挨拶される森会長

また、総会の後、神戸山手大学 後藤安子教授を講師に迎え、「広い視野での環境問題を考えて」をテーマに、「地球温暖化がこのまま進むと、近い将来深刻な問題が起こるといわれており、温暖化防止のために低炭素社会を目指すこと。そのために、一人ひとりがエネルギーを節約することが大切。①Reduce (リデュース：減らす)、②Reuse

(リユース：再使用)、③Recycle (リサイクル：再生利用) と兵庫県版④Repair (リペア：修理) ⑤Refuse (リフューズ：使わない) の2つを加えた3R+2Rを心がけましょう。」との内容で講義を受けました。海岸近くにお住まいの講師先生は、植樹活動や天然せっけん使用など女性部の活動もよくご存じで、海への想いの強さがうかがえる熱の入った講義でした。エコバッグの利用など日ごろ行っている省エネ対策が浸透しつつあり、「漁業のためにも地道に活動を続けることが大切なこと。」が再認識されました。



後藤教授の講義

## 効果的な栽培漁業、資源管理型漁業の推進を再確認

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会(13会員、309名)は、5月29日(土)、平成22年度通常総会をフローラルイン姫路で開催しました。大角会長の開会挨拶に続き、来賓の県水技センター山下専技から「海の環境が読みづらくなっているが、魚をどう売っていくか魚食普及のため浜からの発信を期待する」、(社)播磨漁友会の井上会長から「口蹄疫問題で魚が見直されるべきとき。漁業は餌なしで再生できる一次産業の中でも永久に続けられる職業」、JF兵庫漁連の山口専務から「魚食普及は将来の消費者を育てる大事な取組で、互いに刺激し合いながら活動を」と挨拶が述べられました。

続いて、平成21年度の事業・決算報告、平成22年度予算などが審議され、原案どおり承認されました。事業計画では、効果的な栽培漁業、資源管理型漁業の推進など6項目の活動方針が決定さ

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

れ、次いで、「ガザミふやそう会」の活動計画では、10項目の基本方針のほか、「祭りガニ」ブランド化事業の取組方法などが確認されました。

総会に引き続き、JF兵庫漁連の山崎魚食推進室長による「魚食普及活動の現状と教え方のポイント」をテーマとした学習会が開かれ、「料理教室でどうすれば子供たちが食いつくか」など、室長の体験を中心とした具体的かつ軽妙な説明に、54名の参加者全員興味津々で学習していました。



摂津播磨地区漁青連総会の模様

## 「淡路の魚」のブランド化をさらに推進しよう!

### 淡路地区漁協青壮年部連合会

5月28日(金)、ホテルニューアワジにおいて、淡路地区漁協青壮年部連合会(19会員、285名)の平成22年度通常総会が開催されました。中村会長の挨拶の後、県洲本農林水産振興事務所の三浦所長、(社)淡路水交會の前田会長、JF兵庫漁連の田中本部長から来賓祝辞があり、続いて、山口理事(JF仮屋)が議長に選出され、平成21年度の事業報告、平成22年度事業計画などの議案が審議・承認されました。また、役員改選が行われ、安田理事(JF南淡)、石上監事(JF一宮町)が新たに選任されました。新年度の重点事項は、昨年度に引き続き「淡路の魚」のブランド化を目指すことが確認され、全員に協力が呼びかけられました。

総会のあと、学習会が開かれ、県立水産技術センターの安信主任研究員から「アサリの減少が漁業に与える影響とアサリ資源の回復方法」と題する

講演がありました。アサリの減少はノリの色落ちばかりでなく、食物連鎖を通じてマコガレイ等の資源にも大きく影響しているとの話で、アサリの種苗生産コストが大幅に低減していること、その種苗を活用したアサリ養殖の拡大により自然海への種苗供給が増やせるなど、興味深い提言もあり、73名の参加者は熱心に聴き入っていました。



淡路地区漁青連総会の模様

## 通常総会と学習会 ～ 魚食普及と胴衣着用をさらに推進しよう ～

### 播磨地区漁協女性部連合会

播磨地区漁協女性部連合会(本多春代会長、12会員843名)は、6月1日(火)、姫路市内において平成22年度通常総会を開催しました。総会では、本多会長の挨拶の後、来賓の(社)播磨漁友会上村広一副会長が、「不漁や魚価の低迷が続く中、魚食普及活動への積極的取組に敬意を表する。」と挨拶され、続いて平成21年度事業報告、平成22年度事業計画などが審議の上、可決承認されました。「本日より新たな気持ちで51年目の新年度が始まります。」との議長をつとめられたJF東二見の中村則子氏の閉会挨拶が印象的でした。



通常総会の様子

総会終了後、昼食をはさみ、神戸大学の古荘雅生教授と神戸運輸監理部の筒井宣利課長によるライフジャケット着用推進をテーマとした海上安全学習会が実施されました。

両講師とも、事故の実例から予防への着眼点や女性部ならではの取組方法の提案に加え、試作品を実際に着用して改良点を聴取するなど充実した内容となりました。約50名の出席者は講義に熱心に耳を傾け、また試着後の意見を述べていました。今、女性連で検討が進められている「ライフガードレディース」活動にも当地区への期待が高まります。



学習会で実際にライフジャケットを着用

## プレジャーボート責任保険加入実績5年連続全国第1位に

兵庫県内海漁船保険組合

去る6月2日、神戸市内で県内海漁船保険組合の平成22年度通常総代会が開かれ、平成21年度業務報告、同22年度事業計画など5議案が原案どおり承認されました。

会議に先立ち山田隆義組合長は、赤字決算を回避することができたのは、皆様のご協力のお蔭であると感謝を述べたあと、「国における事業仕分けが、漁船保険団体の準備金に波及することも考えられるし、そうなる等国庫補助金の廃止等も取りざたされる心配もある。

また、先の高木提言にあった漁業権の一般解放議論など、我々業界の根底を脅かす動きには体を張って阻止したい」と挨拶され、出席者に理解を求めました。

また、県水産課 藤澤崇夫課長は、「県漁連、内海漁船保険組合、共水連兵庫県事務所、海づくり協会、水産振興基金5団体がスクラムを組んで推進している操業安全講習会を評価され、事故のない

安全・安心な漁業・漁村の構築を願う」と来賓挨拶されました。

同組合の事業の中で特に注目されたのは、プレ

ジャーボート責任保険の加入実績が5年連続全国第1位になったこと。兵庫県下の港湾・漁港等に係留されているプレジャーボートは約1万隻、うちマリナー、県営ボートパークなどで適正係留されているのは約3割で、大半が不法係留というのが実態です。これらのボートが漁船とトラブルを起こすこ

とが多く、このため、漁連と漁船保険組合は、平成13年に成立した「小型船舶の登録等に関する法律」の施行を機に、県港湾課や中央省庁にプレジャーボートの全船P&I保険加入の義務づけを要請してきましたが、未だに行政の理解が得られていません。そのような中、プレジャーボートの保険加入実績が徐々に上がってきていることは、漁業者にとって朗報といえます。



総代会での審議の様子

## 団結力で現状打破を

(社)淡路水交会の第40回通常総会が去る6月3日(木)、洲本市内のホテル夢海游で開かれ、組合長全員の出席のもと、平成21年度事業報告ならびに収支決算報告、員外理事の増員の2議案が審議され、いずれも原案どおり承認されました。

総会では前田吉計会長が「先の見えない漁業の厳しい状況の中、淡路では19年度から全島をあげてアオリイカの産卵場所づくり、また、昨年度から漁業者による森づくり活動に取り組んでおり今後も続けていく。淡路の団結力は他のどこの海区にも負けない」と力強い挨拶があり、続く来賓祝辞では、洲本農林水産振興事務所三浦所長から「22年度は農政の大きな変化の年。今後10年を見通した新しい明るい県のビジョンを策定するので知恵をいただきたい」、JF兵庫漁連山口専務から「新規就業者

(社)淡路水交会

が59名しかいない状況のなか業界としてもビジョンをつくる。シミュレーションに基づく対策をまとめるのでご協力を」との要請が述べられました。

この後、JF福良前田組合長を議長に議案審議が行われ、員外役員に来賓として祝辞を述べられた三浦所長が新理事に選任されるなどで総会は終了しました。



淡路水交会通常総会の模様

## 平成22年度通常総会を開催

### 淡路漁協職員協議会

6月5日(土)、洲本市内のホテルにおいて淡路漁協職員協議会(福岡靖二会長、21会員131名)の平成22年度通常総会が開催されました。

当協議会は、漁業協同組合の運営を直接担当する漁協職員で構成され、職員相互の交流だけでなく、事務能力の研鑽や資質の向上を図るため、研修事業等を積極的に開催しています。

50名出席のもと、福岡会長は開会の挨拶で「水揚減の影響で職員数も減少しているため、以前より多くの業務をこなさなければならず、積極的に研修などを行い、我々職員の一層の努力で、漁協事業を盛り立てていこう」と、決意を述べられました。

来賓の挨拶に続く審議では、平成21年度事業の実績報告、平成22年度の事業計画、任期満了に伴う役員改選などが承認・可決されました。

新会長は、浅田浩文氏(JF浅野浦)、副

会長は、太田勝氏(JF一宮町)、飯田武弘氏(JF南淡)となりました。

総会終了後の懇親会では、各漁協の職員同士の懇談の輪が広がり、また、(社)淡路水交会前田会長をはじめ来賓の皆さんを囲んで、会話がはずみました。

漁業活動の活性化が必要な今こそ、漁協職員の頑張りが期待されています。



淡路漁協職員協議会総会の様子

## 大輪田塾 第6期生 募集中!

今月から第6期生を募集いたします。詳しい募集要領は各組合宛に通知させていただきましたが、主な内容は以下のとおりです。

- ◎**応募資格**
  - ① 漁業歴 10年以上かつ45歳未満
  - ② JF関係役職員歴10年以上かつ45歳未満のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者
- ◎**在籍年限** 原則2年(最長3年)
- ◎**研修方法**
  - ① 研修内容  
原則月1回の座学による講義受講の他、訪問研修や年1回の宿泊を伴う現地研修、また塾が認証したセミナーやシンポジウムなどの参加による。
  - ② 研修方法
    - ・講義の受講とレポートの提出。
    - ・課題に対する討議での論理構築訓練など。



第6期生は9月上旬に募集を締切、その後、面接と審査委員会での選考を経て、10月下旬に入塾式を行います。

問合せ先：(財)兵庫県水産振興基金 TEL 078-919-1331

## 大阪湾クリーン作戦実施!!



漁業者と小学生が清掃する様子

6月9日、JF炬口主催のもと、炬口海水浴場において地元漁業者と小学生約50名が参加し、清掃活動が実施されました。

この清掃活動は大阪湾クリーン作戦の一環として実施されたものであり、国、地方公共団体、環境団体、漁業関係団体、海事関係等の各機関が連携して、大阪湾のごみを削減するため、河川・海岸・海域へのごみ等の廃棄物の投棄を防止するとともに、廃棄物の回収を推進しています。

当日は、暑い中でしたが、参加された方々は積極的に浜の清掃活動に取り組み、中には海の中に入ってごみを拾う小学生の姿も見受けられ、沢山のごみが回収されました。ごみの多くは流木だったため、木片をごみ袋に入れると袋が破れてしまったり、袋に入らないほど大きな木があったりして、ごみを運ぶのは大変でした。

また、きれいになった海岸で、漁協青壮年部が協力して地曳き網漁とヒラメ稚魚放流体験が行われ、小学生は大喜びでした。

同作戦期間は6月末で終わりますが、漁場環境を保全するため、我々JF関係者は、引き続き積極的に清掃活動等に取り組みたいものです。



地曳き網漁を体験 (写真提供：洲本市)



ヒラメ稚魚放流を体験 (写真提供：洲本市)

### 団体名変更のお知らせ

6月1日より「但馬地区漁業協同組合協議会」の名称が変更になりました。

新名称

## 但馬地区漁業協議会

(所在地、電話番号等に変更はありません)

所在地：〒669-6543 兵庫県美方郡香美町香住区若松 747 但馬漁業協同組合内  
TEL：0796-36-1331 FAX：0796-36-1305

## 消防指令車を寄贈

JA丹波ひかみは今年12月に合併20年を迎えることを受け、4月6日、丹波市に消防指令車を寄贈しました。これは合併以来JAを支えている地域への感謝の気持ちを表し、20周年の節目の年に地域に貢献できることを、と企画されたものです。

本店での贈呈式では、開田和組合長から丹波市の辻重五郎市長に目録と記念のキーを贈呈し、関係者によるテープカットで寄贈を祝いました。

辻市長は、「消防組織の見直しを進めている中、このような立派な指令車は、地域の皆さんに安全・安心を提供する消防団活動に大きな役割を果たします。有効に大切に活用します」と感謝の言葉を述べました。



贈呈式でのテープカット



開田組合長(左)から辻市長へキーの贈呈

## 生活協同組合コープこうべ コープ神吉移設オープン

～どこでも、だれでも、自由に、使いやすく～

コープこうべ・コープ神吉(加古川市東神吉町神吉)が移設し、4月16日(金)にプレオープン、翌17日(土)にグランドオープンしました。

プレオープンでは、季節はずれの冷たい雨にも関わらず、多くの組合員様が開店前から列をつくり、5分早めて開店しました。開店後も入場制限するほどで、店内は職員の活気あふれるおすすめの声が響くなど終日にぎわいました。組合員からは、「商品が見やすく買いやすい」「店内が明るく気持ちが良い」といった声が聞かれました。

新しい店舗は、幹線道路沿いの立地を生かして、60台の全面駐車場を設置し、省エネ型の空調機、冷ケース、LEDライトなど省エネ導入システムを取り入れることで同規模の店舗よりエネルギー使用量を約25%削減できるようになっています。また、バリアフリー対応のトイレ、スロープ、視覚障害者用のインターホンを設置するなど、人と環境にやさしい店舗として「地域一番店」をめざします。

さらに、店舗西隣に「コープこうべ在宅介護サービス加古川」を併設し、介護が必要な方への相談窓口として、ケアプランや訪問介護サービスを提供します。



ワンフロアで広く買いやすい店内

# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## トンボ公園

◆日本国は「豊葦原瑞穂国」と美称され、秋津島とも呼ばれる（アキツはトンボの古名）。それは日本書紀や古事記に記載がある。我が国は水と緑に恵まれたトンボの島だったようだ。高知県中村市のトンボ王国は、全国のトンボ公園の草分け的な存在で、トンボの棲める環境作りのため休耕田を購入したり、賃借して水溜まりを造成している。既存の公園を改良してトンボ池を設置した佐賀県の例もある。ふるさと創生1億円事業を切っ掛けに、経済成長と引き換えに環境破壊した反省から、環境保全や保護の意識が目覚めた感じに思える。

◆トンボは全世界で約5,500種が知られている。大凡の数字しか挙げられないのは、東南アジアやアマゾン上流域、また中国奥地など、調査が不十分な地域があって新種の見つかる可能性が大きいからである。日本では196種が記録され、亜種を加えて214種となる。欧州は全体で116種だから日本では種類が随分多いと言える。世界一小さなハッチョウトンボは貴重な存在で、東北から九州まで、水苔が生えるような湿地で生育している。成熟した雄は真っ赤になり、体長2センチ足らずのため可愛く、とても可憐なトンボである。

◆昔、ギンヤンマを追いかけて捕らえた。雑草の生えた空き地が沢山あって我らの遊び場になっていた。薄暗くなりかけた夕刻、湧くように現れて飛び回る。「黄昏飛翔」という習性である。

糸の両端に小石を結び、ヤンマの飛ぶ少し前に投げ上げるとヤンマは餌だと思い飛びつき、糸に絡まって墜落する。こうして取ったギンヤンマが仲間らの自慢だった。ヤンマは顔面だけを見ると怪獣の雰囲気、牙をむかれると恐ろしい。今、菜園の水溜りにイトトンボが群がっている。鮮やかな青色で、名前もすぐ判るだろうと思ったが、これが中々に困難で同定が難しい。もっと注意深く観察すべきで未だ名前は不詳のままだ。

◆トンボは肉食性で、幼虫期には水中でボウフラやミジンコ・小魚を捕食するが、自らも魚や蛙・ザリガニなどに食われている。溜め池で幼虫がブルーギルに食われているのを見た。成虫になり、飛翔生活になっても、蚊や虻・蜂を捕食する。時には蟬を捕まえたり蜘蛛を襲うこともあるが、逆に鳥や蛙に食べられもするし、同族の共食いにも遭う。また、蟻螂に捕まったりツバメの雛の餌にもなって、まさに弱肉強食、食物連鎖の輪の一部になっている。近年は南方系トンボの北上が話題になるが、ネキトンボという赤色のトンボが徐々に東へ分布を広げており、外にも何種類かが北進を続けているという。



トンボ（平池公園《加東市社》にて）

## 大輪田塾だより

### 「JF 兵庫漁連の事業」と「気象」

5月の大輪田塾は25日(火)に兵庫県水産会館で、「JF兵庫漁連の事業概要」のテーマでJF兵庫漁連の突々参事が、また「漁業における気象情報の利用について」のテーマでJF兵庫漁連のり研究所の中谷主任が講義し、第4期生2名、第5期生5名の他、運営委員、県の担当職員あわせて計15名が出席しました。

突々参事は、平成20年度に始まったJF兵庫漁連の5ヶ年中期計画をもとに事業の説明とその進捗状況を講義し、自身が歴任した流通加工部門での経験からSEAT-CLUBの方針や食育の考え方にまで言及し、中谷主任は、天気図の見方から近年の異常気象に至る一般的な講義

に加え、あまり知る機会のない台風の進路予想図の詳細な見方を講義するなど多彩な内容になりました。

塾生は年間平均気温の求め方などについて質問を繰り返していました。



突々参事の講義



中谷主任の講義

### 表紙の言葉



### 大阪湾クリーン作戦による炬口海水浴場清掃

昭和59年から始まった「大阪湾クリーン作戦」は今年も6月に実施されており、写真は同作戦の一環として6月9日に洲本市炬口海水浴場で行われた清掃活動の様子です。地元の漁業者、小学生など約50名が打ち上げられた流木などの片付けを行いました。